

■ 晴天のもと、3年ぶりの栗中祭 5月14日(金)



前日の朝まで雨が降っていましたが、当日は久しぶりに青空が広がったなか、全校生徒が参加し栗中祭が開催されました。昨年は新型コロナウイルス感染症で学校が休校となり開催できず、一昨年は前日までの練習で熱中症が疑われる生徒がたくさん発生したことを受け、急きょ中止となりました。3年ぶりに開催することで、1年生は当然ですが2、3年生にとっても初めての栗中祭。今年も感染症が心配されますので、日程や競技種目も様々な配慮や工夫をしながら、開催しました。昨年度末から生徒会役員と教員が栗中祭実行委員会を結成し、感染症対策をしながらみんなが安心して取組める競技はどういったものなのか、学年ごとの開催ではなく、みんなで一緒にやりたい、そのためにはどんな日程でやればいいのか、何度も会議を持ちながら意見をまとめていきました。競技種目は各学年とも同じで、玉入れ、波乗りジョニー、全員リレーの3つです。その種目を学級全員で参加し、それぞれの学年ごとで競いました。



前日準備では、上級生が中心となりグラウンドに残っている水溜りをスポンジで吸い取り、さらに上から土をかぶせてきれいに整地しました。3年ぶりの栗中祭を何とか自分たちの手で成功させたい、そういった思いが熱心に作業する子どもたちの姿から感じ取ることができ、当日の晴天につながったのではないかと思います。



当日は生徒会長のあいさつから始まり、全員で準備体操をして第1種目の玉入れがスタートしました。学級を3グループに分け、それぞれのグループが入れた球の合計で順位が決まります。普通の玉入れと違い、かごから半径4メートルの円を描き、その中に入って玉を投げることはできません。円の中には球拾い要員が配置され、落ちた玉を円の外にいる仲間にパスをします。かごに向かって投げる人のコントロールが勝敗のカギを握りますが、球拾い要員の素早い動きも大切です。第2種目は波乗りジョニーです。広げたブルーシートの上に人を乗せ、二人の引手がブルーシートを引っ張ります。シートに載せる人数も最初は一人からスタートしますが、徐々に増えていきます。みんながタイミングよくジャンプしないと、シートは前に進みません。ジャンプするタイミングの合わせ方やシートを引くスピード、うまくかみ合わないシートからこぼれ落ちたり、進むスピードが遅くなったりします。それぞれの学級で練習を重ね、作戦を練り上げました。最後は全員リレーです。それぞれの学級で走る順番を決め、人数調整の関係で2回走る人もいます。一人約75メートルを走りますが、リレーゾーンをうまく使えば走ることが得意な人はできるだけ長い距離を走り、そうでない人は少しでも短い距離を走ることができます。そういった工夫も学級で考えました。



今年の栗中祭で一番印象に残ったことは、自分たちの学級が先にゴールした後でも、最後までやっている学級を全員で手拍子を取り応援している姿や、結果は最下位でも最後までしっかりと走りきる姿があったことです。結果的にそれぞれの順位が決まりましたが、その結果以上にみんなが真剣に取り組み、とても楽しくこれ以上ない笑顔が本当に輝いて見えた今年の栗中祭でした。感染症対策として保護者の皆さんの参観をお断わりし、ご迷惑をおかけしましたことお詫



び申しあげるとともに、ご理解くださいまして本当にありがとうございました。今後、できるだけ早く感染症が終息に向かい、保護者のみなさんとともに子どもたちの成長した姿が見られる機会を持つことを願っています。生徒のみなさんお疲れ様でした。君たちの「仲間力」は本当にすごい！